

年間のゴールの姿

主体性をもち協働的に学ぶことで、不足なく表現することができる。

## 1 授業づくり

### (1) 現状と課題 (R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
問われたことに対して正しく表現することができない。(不足が多い)	<p>[現状と要因]</p> <p>○児童からチャレンジワードを引き出すことによって、既習とつなげながら考えをもてるようになってきた。</p> <p>△何が問われているのかを全て理解できず、間違った答え方をする児童が多い。→課題とまとめのつながり、条件に合った表現の仕方等が徹底されていない。</p> <p>[根拠となるデータ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期 成果検証「過不足なく表現することができる。」(62.7%)</li> <li>・R5 県評価問題 国語3(2) 25.0% 算数3(2)10.7%</li> <li>・児童アンケート「考えや説明などを正しく書くことができる」(79.2%)</li> </ul>

### (2) 計画と実行 (P・D)

具体的取組	評価項目	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に考えをもつための手立てを準備する。(既習との繋がり、模型、ワード等)</li> <li>・曖昧な表現や不足している表現に問い返しをする。</li> <li>・問われていることに対する、答え方を具体的に確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果検証「見通しをもち、考えをもつことができる。」90%</li> <li>・実施検証「児童が考えをもつための手立てを準備している。」 「曖昧、不足な表現に対して問い返している。」100%</li> <li>・研究授業「見通しをもち、考えをもつことができる。」90%</li> <li>・診断テスト「不足なく表現することができる。」60%</li> <li>・児童アンケート「問われたことについて考えや説明を正しく書くことができる。」70%</li> </ul>	

### (3) 検証と改善 (C・A)

月	評価方法 (誰が, いつ)	結果	取組の成果○・課題▲
4	□児童アンケート (検証: 4週)		
5	□ノート検証 (学担: 3週) □授業評価表 (学担: 3週) □参観シート (研究授業: 4週) □診断テスト (検証: 3週)		
6	□ノート検証 (学担: 3週) □授業評価表 (学担: 3週) □参観シート (研究授業: 4週) □診断テスト (検証: 3週)		
7	□ノート検証 (学担: 2週) □授業評価表 (学担: 3週) □診断テスト (検証: 3週) □児童アンケート (検証: 3週)		
9	□ノート検証 (学担: 2週) □授業評価表 (学担: 3週) □参観シート (研究授業: 4週) □診断テスト (検証: 3週)		

取組の成果○・課題▲

## 2 基盤づくり

目標	具体的取組	評価
最後まで話を聞くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな場でも指示や話を最後までしっかりと聞けるようにする。</li> <li>→途中、聞いていない様子が見られたら、話しを止め、聞く姿勢を整えさせる。</li> <li>・大事なことを聞き落とさないようにする。</li> <li>→話しの内容が伝わっているか問い返しをする。</li> </ul>	